

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	モダンデザイン (Modern Design)		
ナンバリングコード	L20405	大分類 / 難易度 科目分野	建築学科 専門科目 / 標準レベル 建築計画
単位数	2	配当学年 / 開講期	2 年 / 前期
必修・選択区分	コース選択必修:建築設計コース、住居・インテリアコース 選択:建築工学コース、環境地域(まち)コース、環境地域(社会)コース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	L040551	クラス名	-
担当教員名	石井 翔大		
履修上の注意、 履修条件	特にありません。 本講義は建築士指定科目(②建築計画)です。 将来建築士の資格取得を目指す学生は履修を勧めます。		
教科書	石田潤一郎、中川理編著『近代建築史』(昭和堂)		
参考文献及び指定図書	『建築20世紀 PART1、2』(新建築社)、藤森照信著『日本の近代建築 上、下』(岩波新書) 石井翔大著『恣意と必然の建築:大江宏の作品と思想』(鹿島出版会)		
関連科目	スペースデザイン、建築計画1、設計製図1、世界建築史、日本建築史		

○基本情報		
授業の目的	産業革命がもたらした技術的・社会的変化を学び、モダン・ムーブメントの大きな流れと獲得された近代建築の鍵概念を理解すること、また近現代の建築・インテリアの歴史的価値を多様な観点から考察し、今日の新たなデザインを考えるための基礎的能力を獲得することを目的とします。	
授業の概要	産業革命以降の欧米および日本のモダンデザインの歴史を、主に近代建築の成立過程を中心に講じます。図面・写真資料を豊富に提示しながら、モダンデザインを理解するために重要な諸概念を解説します。	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3)アクティブ・ラーニング	「実習、フィールドワーク」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	該当しない	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	モダンデザインの歴史に関心を持ち、身のまわりのデザインと結びつけながら学ぶことができる。		20点	
【知識・理解】	近代建築の歴史的流れや鍵概念を理解し、代表的な建築家の作品や思想に関する基礎知識を身につけている。	50点	20点	
【技能・表現・コミュニケーション】				
【思考・判断・創造】	モダンデザインについて論理的考察ができる。	10点		
○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)				
課題40%、期末試験60%とし、総合して60%以上を合格とします。 原則として毎回、講義の最後に授業内容に関する課題を出します。 課題のフィードバックは、次回以降の授業中に行います。				

○その他

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科目名 担当教員	モダンデザイン（Modern Design） 石井 翔大	授業コード	L040551
学修内容					
1. イントロダクション モダンデザイン、特に近代建築の歴史を理解するのに必要な視点や時代区分、扱う地理的な範囲、また授業の進め方などについて説明する。					
予習	教科書で次回の講義範囲に該当するページを読む。				約2時間
復習	理解が不十分な部分を復習する。				約2時間
2. 産業革命と建築 産業革命がもたらした技術革新が近代社会黎明期の建築に与えた影響をみていく。					
予習	教科書で次回の講義範囲に該当するページを読む。				約2時間
復習	理解が不十分な部分を復習する。				約2時間
3. 19世紀末の造形運動 19世紀末のアーツ・アンド・クラフツ運動を起点として、アール・ヌーヴォーやセセッションなど世紀末の造形運動がいかに生じ、また衰退したかを社会的背景とあわせて講じる。					
予習	教科書で次回の講義範囲に該当するページを読む。				約2時間
復習	理解が不十分な部分を復習する。				約2時間
4. 前衛の運動 未来派、ロシア構成主義、デ・スタイル、表現主義といった20世紀初頭の前衛運動を取り上げ、モダン・ムーブメントの源泉イメージがいかにつくられたかをみていく。					
予習	教科書で次回の講義範囲に該当するページを読む。				約2時間
復習	理解が不十分な部分を復習する。				約2時間
5. アメリカにおける近代建築の形成 ヨーロッパとは異なる歴史的・地理的環境にあったアメリカを取り上げ、摩天楼を生み出したシカゴ派からマンハッタンへの流れと、広大な郊外におけるフランク・ロイド・ライトらの独立住宅の系譜を概観する。					
予習	教科書で次回の講義範囲に該当するページを読む。				約2時間
復習	理解が不十分な部分を復習する。				約2時間
6. 近代建築の成立 1 近代建築の主流が形成された1920年代にフォーカスし、特にドイツ工作連盟からバウハウスへといたる流れを講じる。					
予習	教科書で次回の講義範囲に該当するページを読む。				約2時間
復習	理解が不十分な部分を復習する。				約2時間
7. 近代建築の成立 2 近代建築の成立に決定的な役割を果たしたル・コルビュジエとミース・ファン・デル・ローエを取り上げ、彼らの初期建築作品とその理論的背景を概観する。					
予習	教科書で次回の講義範囲に該当するページを読む。				約2時間
復習	理解が不十分な部分を復習する。				約2時間
8. 近代建築運動の広がり ドイツを中心に発展した近代建築の造形言語、あるいは空間の構成手法は、その後急速に世界各国へと波及した。なかでも北欧、イタリア、オランダなどを取り上げ、それぞれの国と地域で受容された近代建築の多様な展開を見ていく。					
予習	教科書で次回の講義範囲に該当するページを読む。				約2時間
復習	理解が不十分な部分を復習する。				約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	モダンデザイン（Modern Design） 石井 翔大	授業コード	L040551
学修内容				
9. 日本における西洋建築の受容				
明治維新を契機として国家の全面的な西洋化を進めた日本は、「建築」という概念の移入とともに西洋の歴史様式建築の学習を開始した。お雇い外国人から継承した正統な歴史様式建築から、民間による手探りの模倣によって生まれた擬洋風建築まで、我が国における西洋建築の多面的な受容のあり方を講じる。				
予習	教科書で次回の講義範囲に該当するページを読む。			約2時間
復習	理解が不十分な部分を復習する。			約2時間
10. 日本の近代建築運動				
西洋建築の学習を経たのち、近代建築の情報の到来とともににはじまった分離派建築会など日本の近代建築運動の展開と特徴を概観する。				
予習	教科書で次回の講義範囲に該当するページを読む。			約2時間
復習	理解が不十分な部分を復習する。			約2時間
11. 歴史様式とアール・デコ				
20世紀初頭は近代建築の理念が形作られる一方で、歴史様式による建築も未だ社会の主流として存在意義をもっていた。装飾を伴う歴史様式が担保した建築的価値、また歴史様式とモダニズムとの間にあるアールデコが果たした役割を考える。				
予習	教科書で次回の講義範囲に該当するページを読む。			約2時間
復習	理解が不十分な部分を復習する。			約2時間
12. 近代主義の成熟と変容				
第二次世界大戦以降、近代建築が世界的に定着をみせるなかで、その一面的な美学の見直しが開始される。1950年代以降に近代建築の巨匠達が歩んだ成熟と変容の過程をたどる。				
予習	教科書で次回の講義範囲に該当するページを読む。			約2時間
復習	理解が不十分な部分を復習する。			約2時間
13. 近代への懐疑―地域、環境、伝統―				
近代主義に対する批判が多面的に展開された1960年代以降の世界的動向を、地域、環境、伝統といった諸概念を補助線に講じる。				
予習	教科書で次回の講義範囲に該当するページを読む。			約2時間
復習	理解が不十分な部分を復習する。			約2時間
14. 建築のポストモダン				
歴史や場所を超えた普遍性を志向した近代建築に対して、歴史を参照し地域性を重視したポストモダン建築の成果と限界を考える。				
予習	教科書で次回の講義範囲に該当するページを読む。			約2時間
復習	理解が不十分な部分を復習する。			約2時間
15. ポストモダン以後の展開、まとめ				
ポストモダンへの懐疑を経て、近代の再評価が進む現代の建築の展開を概観する。				
予習	教科書で次回の講義範囲に該当するページを読む。			約2時間
復習	理解が不十分な部分を復習する。			約2時間
16. 期末試験				
これまでの全講義内容を試験範囲とする。試験時間は80分。筆記用具を除き持ち込み不可。				
予習				
復習				